

【報道関係各位】



太古から受け継がれた  
人類の軌跡を探訪する

## 『週刊 古代文明 ビジュアルファイル』

2007年1月30日(火)創刊

株式会社デアゴスティーニ・ジャパン

株式会社デアゴスティーニ・ジャパン(本社:東京都中央区、社長:大谷秀之)は、太古より世界各地に栄えた40以上もの文明や王朝を、豊富な写真や資料を基に詳解するマガジン『週刊 古代文明ビジュアルファイル』(全100号予定、創刊号特別定価290円/税込、2号以降通定価560円/税込)を2007年1月30日(火)より全国書店(一部地域を除く)にて発売開始いたします。創刊時には約2週間に渡り、全国にて2000GRP規模のテレビ宣伝も放映の予定です。



### ロマンと科学で解き明かすビジュアルマガジン

『週刊 古代文明ビジュアルファイル』は、「世界四大文明」をはじめ、世界各地に点在した40以上もの古代文明や王朝を、遺跡や伝説から多角的な視点でビジュアル豊かに、その真の姿をひもとくマガジンシリーズです。世界を8つの大陸に分類し、「ローマ帝国」や「エジプト王国」などの各エリアに生れた約40の王朝や文明を、異なるアプローチの6つのテーマで紹介します。

各テーマでは、近年の科学的な解析・文献研究に基づいて、各エリアの歴史、代表的な遺跡や伝説の人物の実像などを文明の盛衰とともに紹介。「アクロポリス」「インカ用水路」などの古代遺跡の全貌をCGやイラストを使って細部までリアルに再現し、当時の建築の目的や手段、現代の発掘方法や年代の測定方法も併せて解説します。さらに、古代人の日常生活や継承されている思想や習俗などを含めて、当時の世界観を詳解します。それぞれのテーマでは、大きく見やすい写真や図版が網羅。古代文明への“理解”と“ロマン”がより一層深まります。

また、古代文明の世界を多角的に考察出来る、古代用語辞典、大英博物館に展示されている美しい秘宝の数々を掲載します。さらに、世界地図上にその同時期に栄えた文明を分布した折込みのアトラスもついてくるので、世界の動き、そして各文明の繋がりが一望できます。毎号を集めて地域・文明ごとに特製バインダーに綴じていけば古代文明のあらゆる側面を網羅したビジュアル大百科が出来上がります。



### “ツタンカーメン王”、“卑弥呼”、“ローマの剣闘”、様々な謎に迫る！

創刊号では、CTスキャンやCGなどの最新技術が蘇らせた「ツタンカーメン王」の素顔、そして邪馬台国の女帝である「卑弥呼」の実像に迫ります。また、ローマ時代に流行した剣闘技という文化。この試合に参加した戦士・グラディエーターは何を求めて死の闘いに挑んだのか？

新たな視点で、ロマン溢れる古代文明の世界を満喫出来る『週刊 古代文明ビジュアルファイル』の商品概要は、次頁のとおりです。

## 仕様



タイトル	『週刊古代文明ビジュアルファイル』
価格	創刊号特別定価 290 円 (税込) 2号以降通常定価 560 円 (税込)
創刊日	2007年1月30日(火)
刊行形態	毎週火曜日発売
刊行号数	全100号を予定
判型	A4変型判(本文32ページ)
バインダー	別売り創刊特別価格690円(別売り)

『週刊 古代文明ビジュアルファイル』は、全世界を8大陸に分類し、各エリアに生れた約40の王朝や文明を6つのテーマで紹介します。

### 【Section 1 古代文明バースアイ】

ひとつの地域にスポットを当て、その地域で盛衰した文明・社会・国家を他の誌面よりも大きく見やすい折込ページで一望できます。また、代表的な遺跡や人物、歴史などの詳細な情報も徹底網羅。



### 【Section 2 古代人の素顔】

近年の科学的な解析・文献研究に基づき、古代の歴史的な人物の実像に迫る。伝説や神話上の人物の生涯を文明の盛衰とともに紹介するだけでなく、古代文明史では見落としがちな地域と人物にもクローズアップします。



【Section 3 文明の舞台】

古代遺跡の全貌をCGやイラストを使って細部まで再現。建築の目的や方法も併せて解説します。また、立地環境が特殊な場合には、その周辺図も一緒に掲載します。



【Section 4 文物と生活】

古代人の日常生活から、装飾品や武器などの道具、船や建物、習俗といった文化までをカラフルなイラストや写真で忠実に再現して、当時の文明世界を解説します。



【Section 5 現代への遺産】

漢方医学、占いの世界の甲骨文字、さらには市民に祭られている古代の神々など、現代へと継承されている古代の思想や習俗を紹介します。



【Section 6 古代へのアプローチ】

遺跡の発掘方法、年代測定の方法などに実際に遺跡発掘の場で用いられている最先端の手法を実例も交えて解説します。また、考古学史の偉人伝、古代文明に対する解釈の変化についても紹介します。





